

事例12

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代、脳梗塞、脂質異常症の患者。造影剤アレルギーあり。BMI 21.0 kg/m²。
- ・ 約 2 年の病歴を有する発作性心房細動に対し、高周波電極カテーテル、イリゲーション電極カテーテルを使用しアブレーションを実施。
- ・ 鎮静薬投与後に血圧低下を認め、昇圧剤を投与した。心房細動に対する焼灼後、心房粗動と心室期外収縮への焼灼を追加した。操作終了後の心臓超音波検査で心嚢液は少量と判断し、血圧低下に対し昇圧剤の追加投与を開始した後、心停止となった。超音波検査と透視で右血胸を認め、胸腔穿刺を実施し、胸腹部CT画像でドレーンの誤留置を認めた。
- ・ 帰室後に胸腔ドレーンを再挿入した。その後も低血圧が遷延するため、帰室 3 時間後に造影CT検査を実施し、右血胸を認めた。帰室 4 時間後に開胸止血術、経皮的心肺補助（PCPS）を実施したが、治療 12 時間後に死亡した。
- ・ 死因は、右下肺静脈裂傷による血胸、出血性ショック。解剖有、死亡時画像診断（Ai）無。